

# 旭ヶ丘キリストの教会

## 主日礼拝順序

2025年11月16日

司会：千田俊昭  
奏楽：千田祥子

黙 祷		一 同
讃 美※	讃美歌30「朝風静かに吹きて」	一 同
主の祈り※	(聖歌表扉または讃美歌564番をご覧ください)	
讃 美	讃美歌320「主よ御元に」	一 同
教会学校	絵本「ダニエル物語」②	牧 師
讃 美	讃美歌525「恵み深き」	一 同
聖書朗読	イザヤ40:1-5	和 子
奨 励	イザヤ書の福音(第12回)	牧 師
主 題	「主を待ち望もう」	
讃 美	讃美歌94「久しく待ちにし」	一 同
献 金	献金と感謝の祈り	輝 美
聖 餐		
頌 栄※	讃美歌543「主イエスの恵よ」	一 同
祝 祷※		牧 師
来週の箇所	イザヤ書第41章	

※印のところでは御起立下さい。

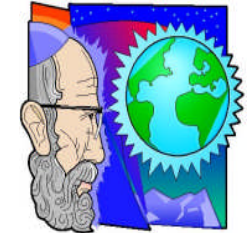
- ☆ はじめて集会においでの皆様。心から喜び、感謝してお迎え申し上げます。しかし、初めての方に無理な勧誘をするようなことは、一切いたしません。むしろ、そっとしておきたいと思うわけです。その態度を冷淡や不親切と誤解なさらないで下さい。
- ☆ 私たちは何派にも属さないクリスチャン個人の自由な交わりの教会です。聖書を学び、キリストに信頼し、キリストが与えてくださる神の義を何より大事にし、信じる者同志が兄弟姉妹として受け入れ合う群れです。
- ☆ 献金は神への感謝として、各自が自由意志で行うものです(2コリント9:7)。入り口に献金箱がありますので、どうぞご利用下さい。
- ☆ キリスト教について、あるいはどんな質問でも、いつでも遠慮なく牧師にご相談下さい。
- ☆ 第二礼拝後、軽食を用意しておりますので、お時間のある方はどなたでも、ご自由にお召し上がり下さい。
- ☆ 二階に教会図書がありますので、どうぞご利用下さい。

## 旭ヶ丘キリストの教会 ニュース



### 《今週の歩み》

11/16(日)聖日礼拝  
/17(月)13:30説教塾(青葉荘教会)  
/18(火)  
/19(水)  
/20(木)10:00聖研  
/21(金)10-12:00Sクラス  
/22(土)13-16子供オプンハウス



### 《祈りの課題》

- ① 家族の救いのために
- ② 礼拝に來れなかった人々のために
- ③ 教会学校の子供たちが救われますように

### 良書ハイライト

### 「第二イザヤ」

「口語旧約聖書略解」(日基出版,1957)p.693

イザヤ書は大別して1-39章と40-66章の二つとする。後者は更に[イ]40-55章、[ロ]56-66章に分け、[イ]を**第二イザヤ**と称し、[ロ]を**第三イザヤ**という。しかし、両者の文体思想が近似しているので、これの一つと見る見方もなくはない。

イザヤ書の前半(1-39章)は、**第一イザヤ**(“エルサレムのイザヤ”)の預言を集めたものと見られる。然るに40章以下は、①歴史的背景、②文体、③思想を著しく異にするのである。

①**歴史的背景**：“エルサレムのイザヤ”はアッスリヤを歴史的背景としているが、第二イザヤ(仮に“バビロンのイザヤ”と呼ぶ)はバビロンからペルシャに移る時代を背景としている。この間、約160年～200年の開きが存在する。第二イザヤの中にはエルサレムの荒廃せる状態(49:19、51:3など)、ベルシャ王クロスの名とその出現(44:28、45:1など)がしばしば出て来るのであって、そこには時代の大きな隔たりが明らかである。

②**文体**：“エルサレムのイザヤ”は預言者であり、またある意味では政治家である。彼の預言は力強く、概して簡潔である。“バビロンのイザヤ”は預言者であると同時に説教者・牧者であり、その文章は熱情的であり、創造豊かなものであるが、最初から書かれたものではないかとも思われる。その叙述は旋回的であってしばしば繰り返が多い。

③**思想**：“エルサレムのイザヤ”にあつては、イスラエル及び諸国に対する審判が基調をなしている。それに対して、“バビロンのイザヤ”においては、審判よりも慰め、励ましが強調されていることは、それが「慰めよ、慰めよ」(40:1)という言葉によって始まっていることによっても明らかである。ここにはペルシャ王クロスによるユダヤ人の解放とエルサレムの復興が繰り返して語られている。いわゆる「主の僕の歌」が挿入され(42:1-4、49:1-6、50:4-9、52:13-53:12)、主の僕による世界伝道の思想が意義深く歌われていることもその大なる特色である。第二イザヤにおいて、イスラエルは世界に対して神より一つの使命を担う国民としての性格が一層強く打ち出されている。

第二イザヤ(“バビロンのイザヤ”)というのはもちろん仮称であり、彼がどのような歴史的人物であったかは全く分からない。“エルサレムのイザヤ”が歴史的に明瞭であるのとは甚だ対照的である。おそらく彼はバビロン捕囚のユダヤ人の間から召された一預言者であろう。ただ彼の預言によって、イスラエル国家の破滅は何を意味するか、またクロスの登場による世界史の意義について、ユダヤ人は甚だ大なるものを教えられたのである。(浅野順一)